

鶴見大学から触察模型教材を寄贈していただきました

ありがとうございます！！

11月3日（祝）に開催した本校の文化祭「きらり祭」で、鶴見大学文学部元木章博研究室より、3Dプリンターで作成した本校校舎全体の模型や理科、社会科学などの授業で活用できる触察模型教材を多数寄贈していただきました。

この日は、鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科教授元木章博先生と同学科4年の遠藤夏加さんが来校され、本校とのコラボ企画として「触って楽しめる3D模型&本校職員による手作り触察教材」のコーナーを設けました。タージマハル、ノートルダム寺院、エッフェル塔や凱旋門など多くの著名な建造物のほか、寄宿舍も含んだ本校校舎の全体模型や授業用教材などを展示していただきました。本校生徒や職員、来校された方々は模型を手にとって「こんなふうになっていたのか。」と興味津々に触ったり、目を近づけて様々な角度から見入ったりしていました。

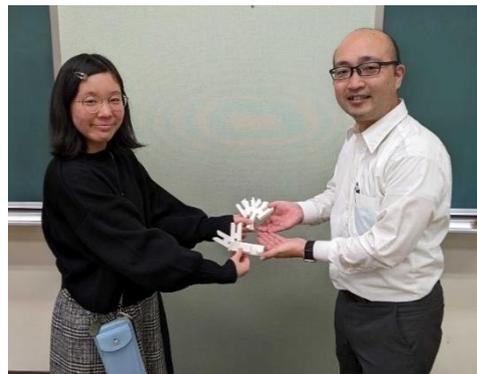
視覚に障がいのある生徒の学習においては、「触りながら知る・確かめる」という活動が必要不可欠です。大きすぎる物、小さすぎる物の他、手で触れると形が変わる物や危険な物などは、模型等を購入したり手作りしたりする必要があり、高価であったり壊れやすかったりすることが悩みでした。元木先生にいた

いた模型は、3Dプリンターで作成された堅牢なもので、多くの人が触っても壊れる心配はほとんどありません。生徒たちが繰り返し学習に活用することができます。

今回展示したものは、全て寄贈していただきました。頂いた模型教材の中には、本校の理科教員からのリクエストで作成していただいたものもあります。「ミジンコ」やウイルスの「抗原と抗体」がそれです。早速理科の授業で活躍しています。元木章博先生、遠藤夏加さん、どうもありがとうございました。



元木章博先生(左)と本校校長



遠藤夏加さん(左)

